

図 5-8 基本計画に関連する用語の認知度

注 1) 各用語の横の数値は認知度(「人に説明できるほど、よく理解している」「意味は知っているが、人に教えられるほどではない」「聞いたことはあるが、意味は知らない」の合計)を示す。

Society 5.0 の用語としての認知度は、前回調査⁴⁴では 12.9%であり、本年度の 23.6%(2019 年度調査の調査対象者に合わせて 10 代～60 代、計 3000 回答にフィルターをかけて再集計した結果)へと、2 年間で約 10%認知度が向上した。

他にも、ESG や SDGs についても、2019 年度と比較して認知度が向上している。特に SDGs については、2019 年度は 26.4%出会った認知度が、2021 年度は 87.2%と大きく認知度が向上した。近年、企業や自治体、教育現場等の多様な場所で SDGs の取り組みが広がり、またテレビ等のメディアでも大きく取り上げられたことが要因であると考えられる。

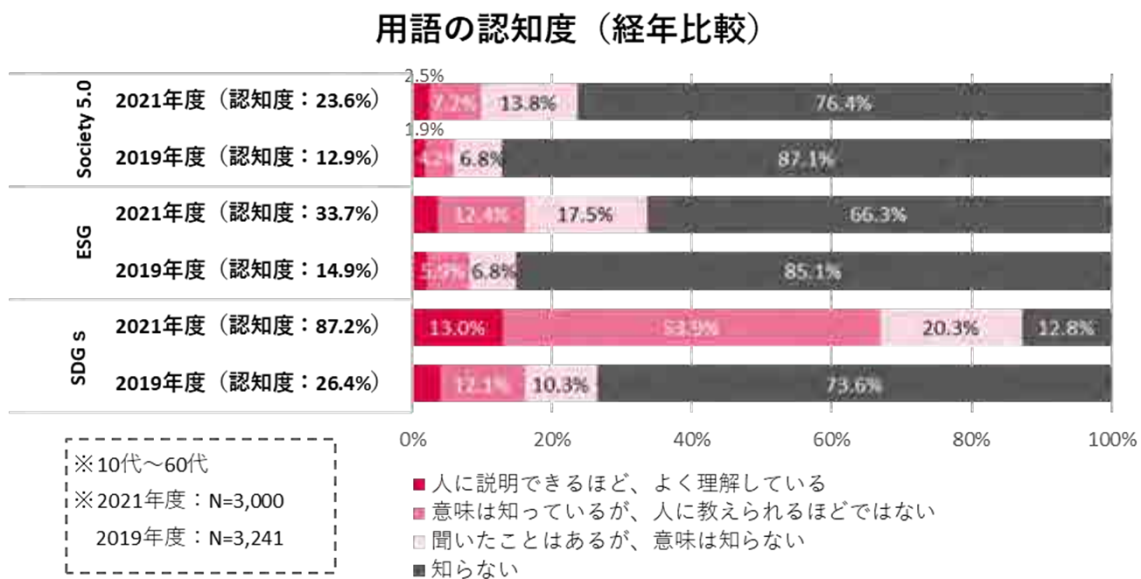


図 5-9 基本計画に関連する用語の認知度(経年比較)

⁴⁴ 内閣府，第5期科学技術基本計画レビュー

注 1)2021 年度の集計は、2019 年度調査に合わせて 10 代～60 代(計 3,000 回答)としている
 出所)2019 年度:内閣府, 第5期科学技術基本計画レビュー
 2021 年度:本調査

次に、「Society 5.0」の用語認知度を性別年代別にみると、20 代男性が 41.2%、10 代以下男性が 36.4%と認知度が高く、一方で 60 代女性は 9.6%と最も低い結果となった。

2019 年度調査と比較すると、どの性別年代でも認知度は向上しているが、男性は特に 20 代、女性は 10 代以下が、それぞれ 19.0%、14.7%と大きく認知度が向上した。

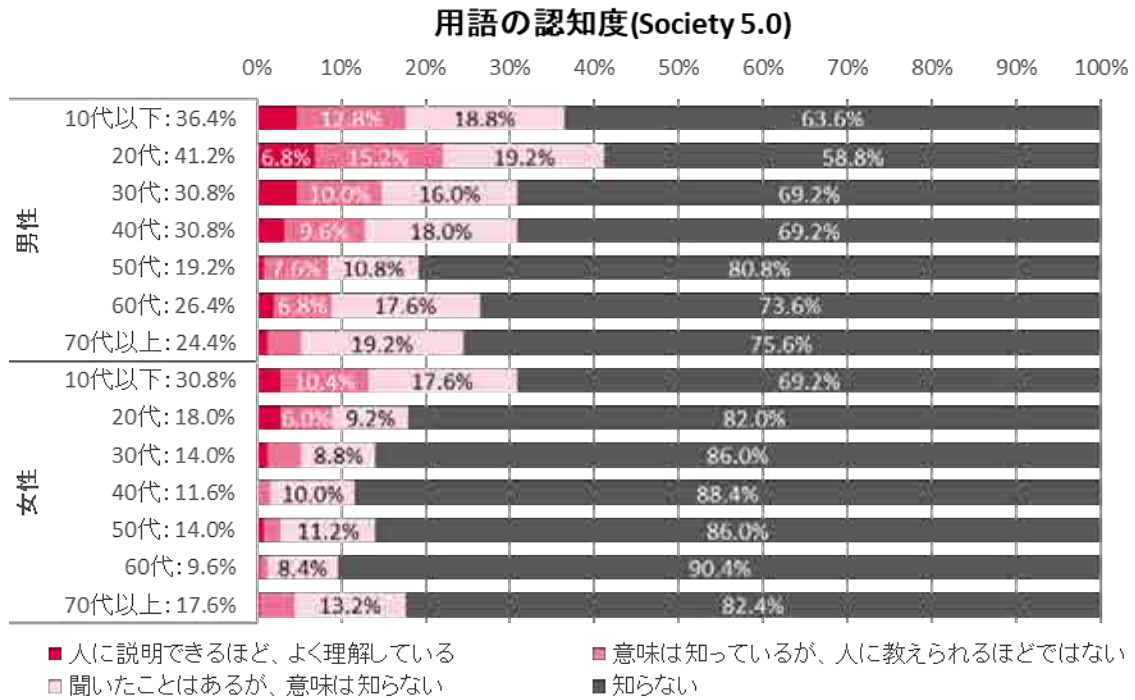


図 5-10 Society 5.0 の認知度(性別年代クロス)

用語の認知度(Society 5.0) | 2019年度

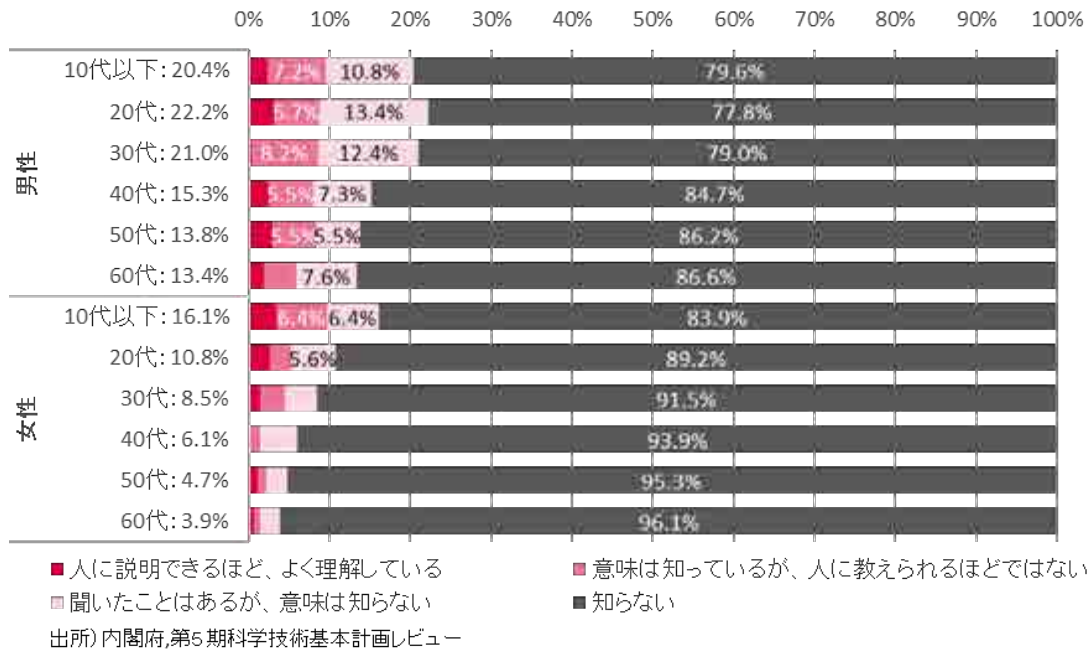


図 5-11 Society 5.0 の認知度(性別年代クロス、2019 年度)

出所) 2019 年度: 内閣府, 第5期科学技術基本計画レビュー

Society 5.0 を知った経路としては、テレビ、ネットニュース、新聞(紙媒体)を通じて Society 5.0 を知った割合が高い結果となった。具体的には、テレビが 46.9%、ネットニュースが 42.6%、新聞が 34.6%の割合であり、主にメディアを通じて Society 5.0 の認知が拡大している。

【設問文】(「Society 5.0」を少なくとも聞いたことがある方へお聞きします。)あなたは、「Society 5.0」をどこで知りましたか。当てはまるものを全てお答えください。[MA]

「Society 5.0」を知った経路

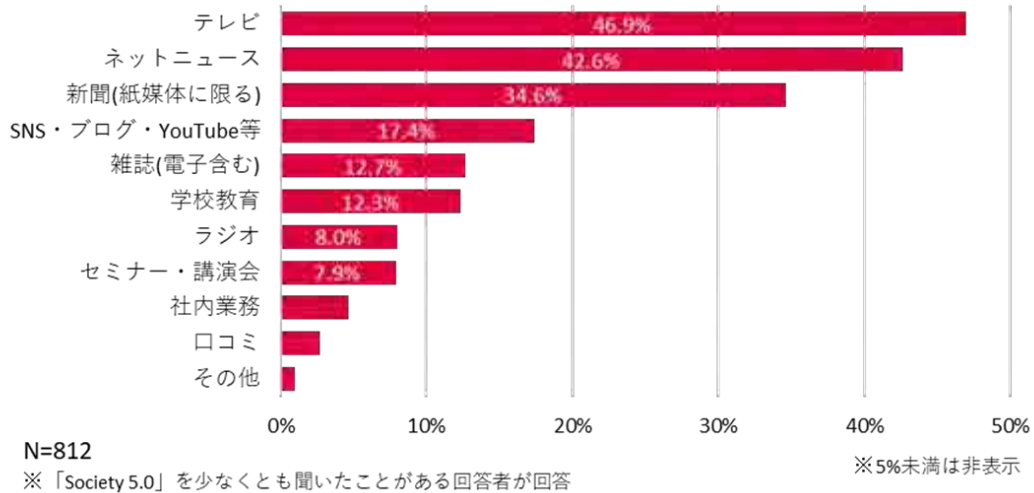


図 5-12 「Society 5.0」を知った経路⁴⁵

Society 5.0を知った経路を年代別に見ると、若者の間では、学校教育や SNS 等が Society 5.0を知った経路として特徴的ある。

具体的には、10代では学校教育が 38.7%と最も高い。20代以上は概ね全体傾向と同じだが、20代は SNS を通じて Society 5.0を知った割合が 29.7%と他年代よりも高い結果となった。

2019年度以降は特に20代以下の年代層で Society 5.0の認知度が向上したことから、近年の Society 5.0の認知度の伸びとして、学校教育および SNS 等も有力な広報ツールとなっていることが示唆される。

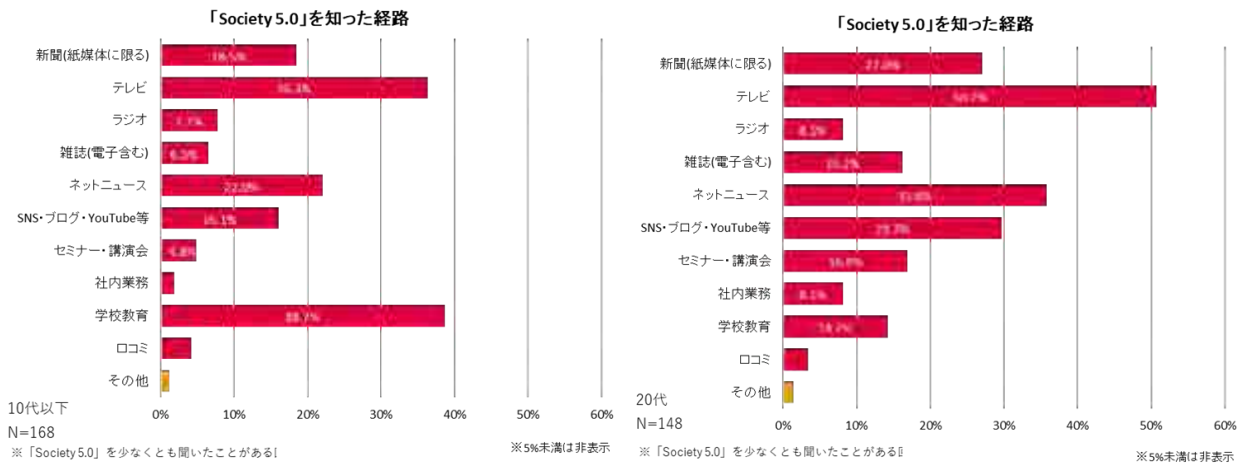


図 5-13 「Society 5.0」を知った経路(年代クロス)

注 1) 左図:10代以下の回答、右図:20代の回答

⁴⁵ テレビ:テレビ(パソコンや携帯ワンセグでの視聴(録画も含む)、NHK オンデマンド、hulu 等のテレビで見る有料動画配信の視聴を含む)。ネットニュース:インターネットのニュースサイト(ヤフーニュースや報道機関のウェブサイト)。新聞(紙媒体に限る):新聞(紙媒体に限る)。SNS・ブログ・YouTube等:インターネット上で個人が発信する情報(ブログ、ツイッター等 SNS での発信を含む)、ユーチューブ、ニコニコ動画等。雑誌(電子含む):雑誌(インターネットでの電子ブック購読を含む)。学校教育:学校教育。ラジオ:ラジオ(インターネットラジオ等での視聴を含む)。セミナー・講演会:セミナー・講演会。社内業務:社内業務。口コミ:口コミ。その他:その他。

b. Society 5.0 の社会像への理解

「Society 5.0」という用語を明示せずに、Society 5.0 が目指す社会像の中身についての説明を回答者へ提示し、社会像そのものの認知度、また認知していない場合は社会像を理解することができるかどうかを調査した。

Society 5.0 の社会像を知っていた回答者は 13.1%であり、社会像そのものの認知は用語の認知度より低い結果となった。また、Society 5.0 の社会像を知らなかったものの、説明を読んで理解することができた回答者は 60.1%であった。

「知っている」と「知らなかったが、説明を読んだら分かった」の回答を合計した 73.2%の回答者は Society 5.0 で実現する社会像に対して理解を示す結果となった。2019 年度調査⁴⁶では、「知っている(15.5%)」と「知らなかったが、説明を読んだら分かった(52.3%)」の合計は 67.8%であり、Society 5.0 で実現する社会像に対して理解を示す回答者層の割合は向上した。

【設問文】あなたは、日本が世界に先駆けて目指すべき社会像として掲げられている、以下のような社会について知っていますか。[SA]

【説明文】

⁴⁶ 内閣府，第5期科学技術基本計画レビュー

日本は、「直面する脅威や先の見えない不確実な状況に対し、持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(wellbeing)を実現できる社会」の実現を目指しています。この社会では、情報通信技術を最大限に活用し、サイバー空間と現実空間を高度に融合させた取り組みにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会の到来が想定されています。こうした社会では、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、知識や情報の共有、分野横断的な連携における課題や困難が克服されます。また、人工知能(AI)により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。



出所)内閣府提供

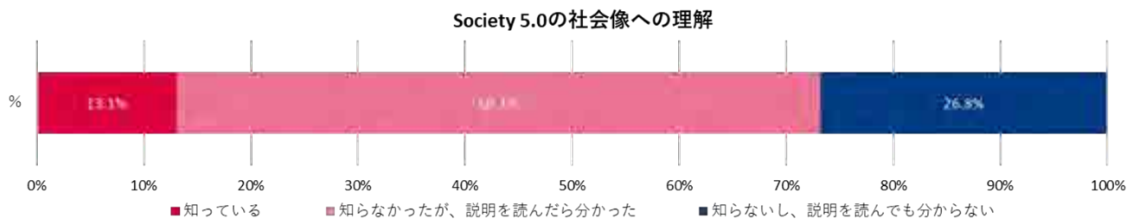


図 5-14 Society 5.0 の社会像への理解

Society 5.0 に対する興味と実現の必要性について、約31.3%の回答者が、Society 5.0 に対して興味を持ち、実現の必要があると考えている結果となった。

また、41.3%が Society 5.0 に興味を持っている(「興味があり、実現する必要がある」「興味があるが、実現する必要は無い」の合計)、60.5%が Society 5.0 を実現する必要があると感じている(「興味があり、実現する必要がある」「興味はないが、実現する必要がある」の合計)結果となった。

【設問文】Q7 で実現する社会は「Society 5.0」と呼ばれ、現在、科学技術・イノベーションを国として推進することで実現を目指している社会です。あなたは Society 5.0 への興味または実現する必要性を感じますか。あなたの考えにもっとも近いものを一つお選びください。[SA]

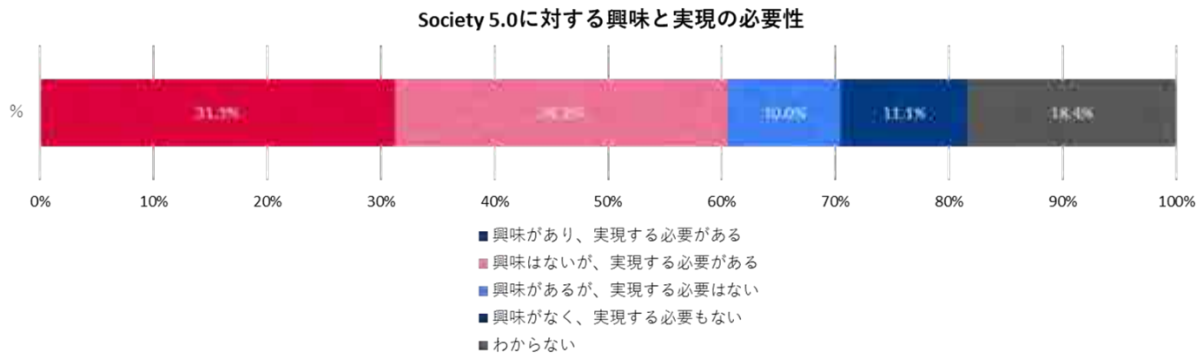


図 5-15 Society 5.0 に対する興味と実現の必要性

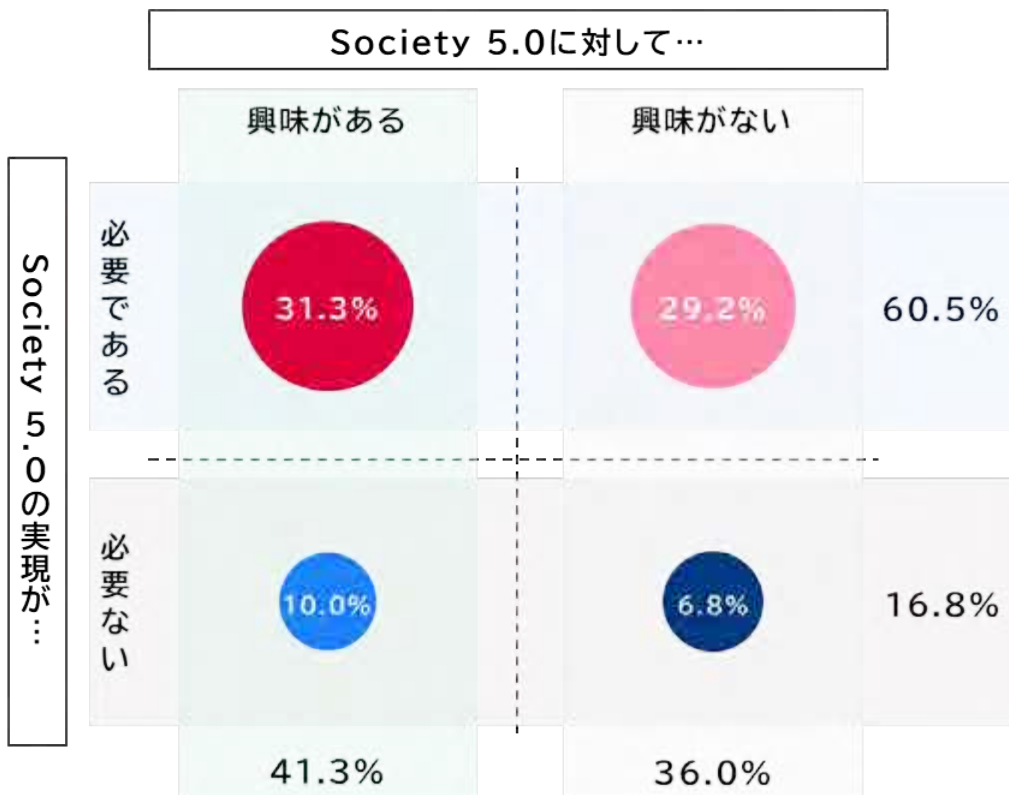


図 5-16 Society 5.0 に対する興味と実現の必要性(マッピング)

c. Society 5.0 の受容性(期待と不安)

Society 5.0 で実現する社会像に対する期待と不安について、2019 年度に調査を行い、本年度は 2019 年度調査を踏襲しつつ、回答者へ提示する社会像の見直しを行った。

また、第 5 期科学技術基本計画において当初示された Society 5.0 の概念は技術起点の色が強く、実現する将来像は AI や IoT などの要素技術とのつながりの文脈から生活者も理解していたことが想

定された。そこで、要素技術起点ではなく、日本には解決すべき重大な社会課題(気候変動、少子高齢化等)があるという社会課題起点の問いに変え、社会課題を解決するために AI 等の要素技術が活用され、強いては Society 5.0 の実現が必要不可欠であるという、考え方のフローを誘導することで、期待が上がる分野があるのではないかと仮説を立てた。

本調査では、回答者の半数には 2019 年度調査と同様に社会像と期待・不安を示し、もう半数の回答者には設問文の冒頭に社会課題を提示する形式とした。



図 5-17 Society 5.0 の社会像に対する考え方のフロー

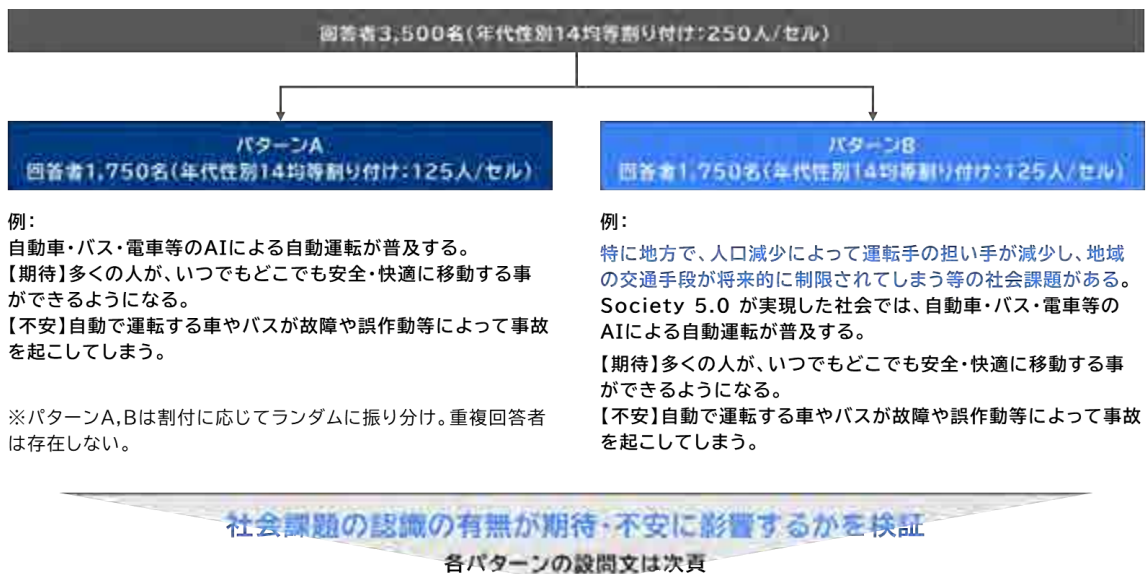


図 5-18 Society 5.0 の社会像に対する期待と不安の設問提示のフロー

表 5-6 Society 5.0 の社会像として提示した設問文

略称	パターン A 社会課題提示なし	パターン B 社会課題提示あり
モビリティ	自動車・バス・電車等の AI による自動運転が普及する。 【期待】多くの人が、いつでもどこでも安全・快適に移動する事ができるようになる。 【不安】自動で運転する車やバスが故障や誤作動等によって事故を起こしてしまう。	特に地方で、人口減少によって運転手の担い手が減少し、地域の交通手段が将来的に制限されてしまう等の社会課題がある。Society 5.0 が実現した社会では、自動車・バス・電車等の AI による自動運転が普及する。 【期待】多くの人が、いつでもどこでも安全・快適に移動する事ができるようになる。 【不安】自動で運転する車やバスが故障や誤作動等によって事故を起こしてしまう。

略称	パターン A 社会課題提示なし	パターン B 社会課題提示あり
メディカル	<p>脈拍などのバイタルデータや行動データを収集・活用して AI が病気を診断し、ロボットやオンライン技術により遠隔で治療・診断できるようになる。</p> <p>【期待】住んでいる場所によらず、一人ひとりに合った適切な診断や治療を受けられるようになる。</p> <p>【不安】AI の誤診や、手術ロボットの誤作動等による医療事故が起きてしまう。</p>	<p>医療費の増加による国の財政圧迫や、地域の医療従事者不足によって適切な医療提供が制限される等の社会課題がある。Society 5.0 が実現した社会では、脈拍などのバイタルデータや行動データを収集・活用して AI が病気を診断し、ロボットやオンライン技術により遠隔で治療・診断できるようになる。</p> <p>【期待】住んでいる場所によらず、一人ひとりに合った適切な診断や治療を受けられるようになる。</p> <p>【不安】AI の誤診や、手術ロボットの誤作動等による医療事故が起きてしまう。</p>
ヘルスケア	<p>個人の健康・医療・介護に関する情報を一人ひとりが自分自身で生涯にわたって管理・活用できるようになる。</p> <p>【期待】自己の健康状態に合った良質な健康増進プログラムや予防プログラムの提供を受けられるようになる</p> <p>【不安】個人情報外部に流出する可能性がある。</p>	<p>寿命は延びているが健康寿命が延びていないことで医療費が増加し、国の財政が圧迫される等の社会課題がある。Society 5.0 が実現した社会では、個人の健康・医療・介護に関する情報を一人ひとりが自分自身で生涯にわたって管理・活用できるようになる。</p> <p>【期待】自己の健康状態に合った良質な健康増進プログラムや予防プログラムの提供を受けられるようになる</p> <p>【不安】個人情報外部に流出する可能性がある。</p>
労働	<p>従来よりも多様で困難な仕事を、AI や機械が人に代わってできるようになる。</p> <p>【期待】様々な製品・サービスを、従来よりも安く、高品質で入手できるようになる。</p> <p>【不安】AI や機械に仕事を奪われて失業者が増加し、貧困や経済格差が拡大してしまう。</p>	<p>少子高齢化によって少ない労働人口で多くの高齢者を支える必要がある等の社会課題がある。Society 5.0 が実現した社会では、従来よりも多様で困難な仕事を、AI や機械が人に代わってできるようになる。</p> <p>【期待】様々な製品・サービスを、従来よりも安く、高品質で入手できるようになる。</p> <p>【不安】AI や機械に仕事を奪われて失業者が増加し、貧困や経済格差が拡大してしまう。</p>
エネルギー	<p>CO2 を排出しない発電方法やデータを活用した最適な発電が実現し、水素等の新しいエネルギーも活用した社会・生活になる。</p> <p>【期待】無駄な発電や CO2 の排出量が減少して地球環境に優しい。</p> <p>【不安】電気代が高騰する、新しい発電技術・エネルギーの利用によって不測の事故が起こる。</p>	<p>発電時に生じる CO2 排出等による地球温暖化や気候変動、化石燃料が枯渇した際に頼るエネルギーが不足する等の社会課題がある。Society 5.0 が実現した社会では、CO2 を排出しない発電方法やデータを活用した最適な発電が実現し、水素等の新しいエネルギーも活用した社会・生活になる。</p> <p>【期待】無駄な発電や CO2 の排出量が減少して地球環境に優しい。</p> <p>【不安】電気代が高騰する、新しい発電技術・エネルギーの利用によって不測の事故が起こる。</p>
行政	<p>インターネットを通じて、いつでもどこでも手軽に行政サービスを受けられるようになる。</p> <p>【期待】行政手続きにかかる時間や費用の負担が減る。</p> <p>【不安】インターネットを使えない人が、行政サービスを受けにくくなってしまふ。</p>	<p>紙による非効率な手続き、高齢過疎地域で行政手続きが難しい人がいる、感染症流行時に対面に依存した行政機能が止まる等の社会課題がある。Society 5.0 が実現した社会では、インターネットを通じて、いつでもどこでも手軽に行政サービスを受けられるようになる。</p> <p>【期待】行政手続きにかかる時間や費用の負担が減る。</p> <p>【不安】インターネットを使えない人が、行政サービスを受けにくくなってしまふ。</p>

略称	パターン A 社会課題提示なし	パターン B 社会課題提示あり
災害	<p>組織を超えたデータ連携による的確な災害対応が実現し、災害時には自動対話型の AI とチャットで相談できるようになる。</p> <p>【期待】どの地域で大規模な自然災害が起きても、迅速に的確な災害支援を受けられ、常に相談できる相手(AI)がいる。</p> <p>【不安】デジタル化した情報共有についていけず災害対応に取り残される、AI から誤った情報を教えられる。</p>	<p>自然災害が頻発化・激甚化する中、人口減少によって災害対応能力が大きく減少している等の社会課題がある。Society 5.0 が実現した社会では、組織を超えたデータ連携による的確な災害対応が実現し、災害時には自動対話型の AI とチャットで相談できるようになる。</p> <p>【期待】どの地域で大規模な自然災害が起きても、迅速に的確な災害支援を受けられ、常に相談できる相手(AI)がいる。</p> <p>【不安】デジタル化した情報共有についていけず災害対応に取り残される、AI から誤った情報を教えられる。</p>
農林水産業	<p>AI 等の技術や様々なデータが農林水産分野で活用され、従来よりも稼げる農林水産業が実現される。</p> <p>【期待】農林水産業の生産性が高まり、食料の国内自給率が高まる。より安くおいしい食品が入手できるようになる。</p> <p>【不安】効率を重視したことによる安全面・品質面への不安や、新しい技術を活用した食品を食べることに不安が残る。</p>	<p>農家の担い手不足により農業を維持することができない、過剰な農薬散布や需給ミスマッチによる食品のロスが起きている等の社会課題がある。Society 5.0 が実現した社会では、AI 等の技術や様々なデータが農林水産分野で活用され、従来よりも稼げる農林水産業が実現される。</p> <p>【期待】農林水産業の生産性が高まり、食料の国内自給率が高まる。より安くおいしい食品が入手できるようになる。</p> <p>【不安】効率を重視したことによる安全面・品質面への不安や、新しい技術を活用した食品を食べることに不安が残る。</p>
教育	<p>児童生徒に「1人1台端末」が用意され、学習履歴などの教育データを活用して、個別化された学習を受けられるようになる。</p> <p>【期待】児童生徒一人ひとりに最適な授業が提供され、無理なく効率的に勉強でき、IT スキルも向上する。</p> <p>【不安】地域・学校間の格差や端末の費用負担、子どものネット依存、成績など学習データや個人情報の漏洩が起きてしまう。</p>	<p>教員の負担が年々大きくなり、児童生徒一人ひとりに合わせた授業を行うことが難しくなっている等の社会課題がある。Society 5.0 が実現した社会では、児童生徒に「1人1台端末」が用意され、学習履歴などの教育データを活用して、個別化された学習を受けられるようになる。</p> <p>【期待】児童生徒一人ひとりに最適な授業が提供され、無理なく効率的に勉強でき、IT スキルも向上する。</p> <p>【不安】地域・学校間の格差や端末の費用負担、子どものネット依存、成績など学習データや個人情報の漏洩が起きてしまう。</p>

社会課題を提示しなかったパターン A を提示した回答者層においては、行政、エネルギー、農林水産業では不安より期待が特に強く、モビリティは期待より不安が強い結果となった。

【設問文】Society 5.0 で実現する社会では、人々に多くの恩恵をもたらすことが期待される一方で、様々な不安の声もあります。あなたは、それぞれの社会像について、期待感と不安感のどちらが大きいですか。[SA]

Society 5.0で実現する社会像への期待と不安 (A)

N=1,750

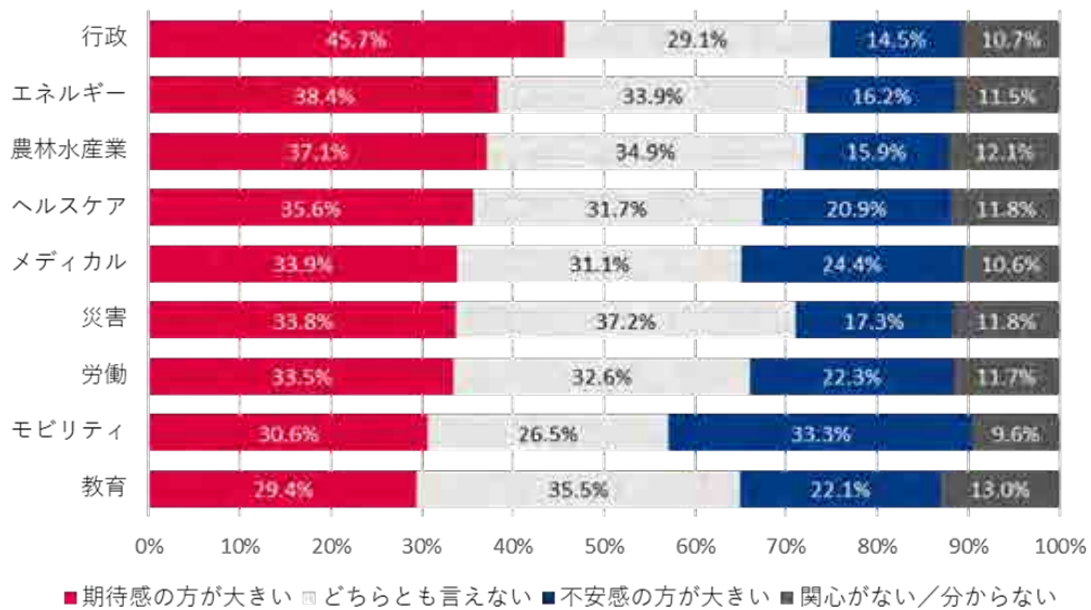


図 5-19 Society 5.0 の社会像に対する期待と不安(A:社会課題提示なし)

社会課題を提示したパターン B の回答者層においては、全ての社会像において期待が不安を上回り、特に農林水産業、行政、モビリティ、ヘルスケア、災害で期待が強い結果となった⁴⁷。特にモビリティについては、社会課題の提示が無いパターンと比較して、不安の回答者層が少ない結果となり、不安の回答者層が期待やわからない等へ思考が移動した可能性が考えられる。

一方で、社会課題の提示が無いパターンと比較して、社会課題を提示することで行政などの分野で期待の回答割合も減少した。これは、社会課題から危機感を喚起されたことがネガティブな志向に向かう影響があった可能性が考えられる。

【設問文】現在の日本には、既に直面している/今後避けられない、解決すべき様々な社会課題があり、Society 5.0 ではそれらの課題を解決することを目指しています。Society 5.0 で実現する社会では、人々に多くの恩恵をもたらすことが期待される一方で、様々な不安の声もあります。あなたは、それぞれの社会像について、期待感と不安感のどちらが大きいですか。[SA]

⁴⁷ 社会課題を提示したパターン B では設問文が長くなったため、「関心がない/分からない」の回答層が増えていると思われる、結果の解釈において留意が必要である。

Society 5.0で実現する社会像への期待と不安 (B)

N=1,750

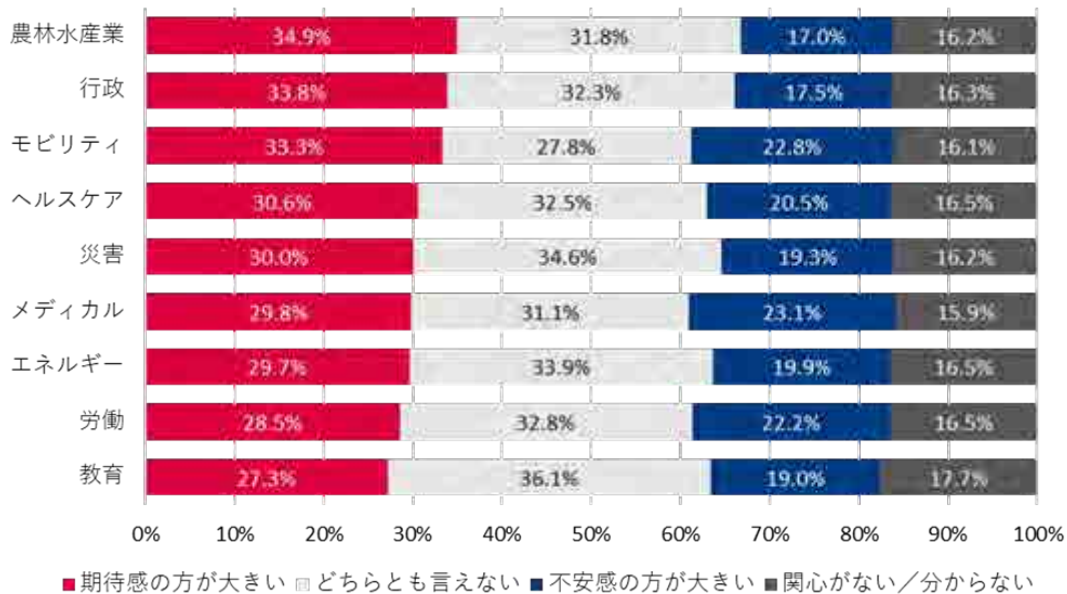


図 5-20 Society 5.0 の社会像に対する期待と不安(B:社会課題提示あり)

Society 5.0 で実現する社会像の自分/社会にとっての重要度として、行政、エネルギー、災害は自分と社会の両方にとって重要であると認識されている結果となった。

自分にとって重要(「自分にとって重要で、日本全体にとっても重要」「自分にとって重要で、日本全体にとっては重要ではない」の合計)の上位は、行政:51.3%、エネルギー:46.2%、ヘルスケア:43.9%であった。

また、社会にとって重要(「自分にとって重要で、日本全体にとっても重要」「自分にとって重要ではなく、日本全体にとっては重要」の合計)の上位は、メディカル:61.0%、農林水産業:60.1%、災害:58.3%であった。

【設問文】Society 5.0 で実現するそれぞれの社会像について、あなたにとって、あるいは日本全体にとっての重要度をそれぞれお答えください。[SA]

Society 5.0で実現する社会像に対する自身/社会にとっての重要度

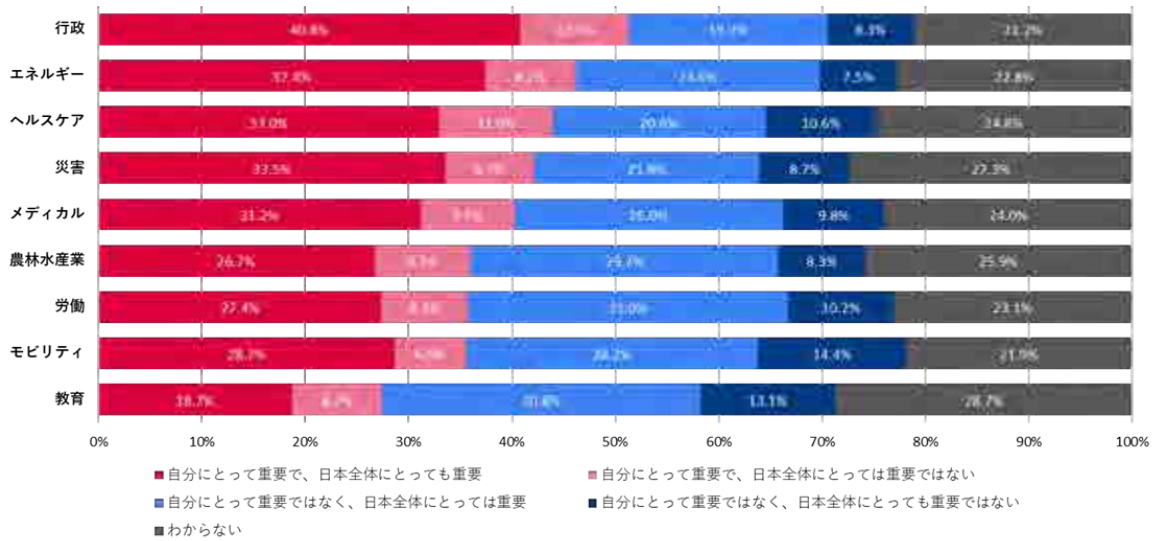


図 5-21 Society 5.0 で実現する社会像の自分/社会にとっての重要度

Society 5.0 で実現する社会像に向けた変化の実感として、行政、労働、教育では実感が強く、ヘルスケア、災害、メディカルでは実感が相対的に弱い結果となった。

具体的に、変化の実感がある(「実感している」「ある程度実感している」の合計)上位は、行政: 31.7%、労働: 26.5%、教育: 26.4%であった。また、変化の実感がない(「あまり実感はない」「実感はない」の合計)上位は、ヘルスケア 70.1%、災害: 69.6%、メディカル: 68.4%であった。

【設問文】Society 5.0 で実現するそれぞれの社会像に向けた変化をあなたは実感していますか。[SA]

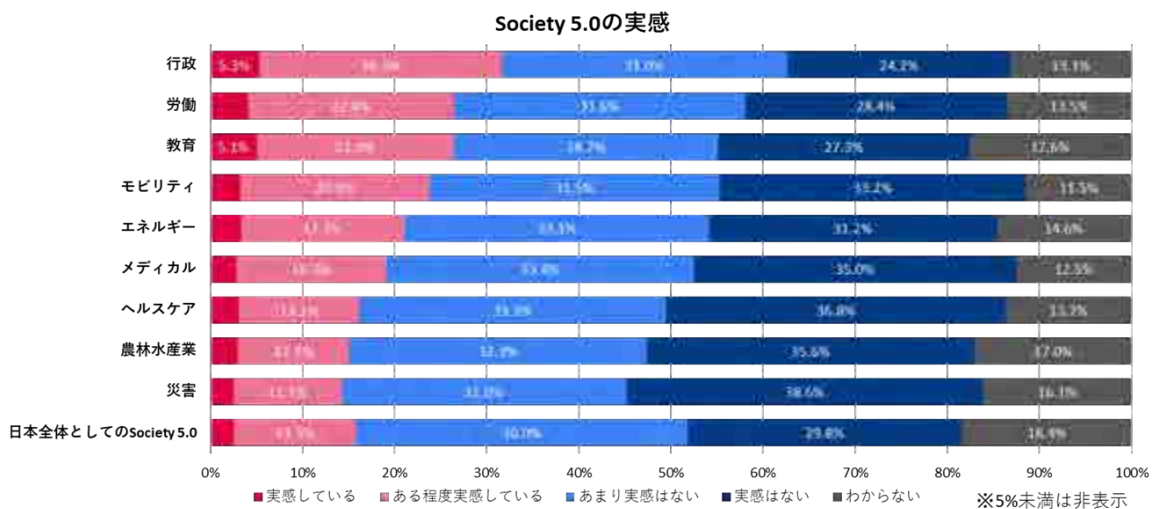


図 5-22 Society 5.0 で実現する社会像に向けた変化の実感

3) 第6期科学技術・イノベーション基本計画への反応

本アンケート調査では、第6期科学技術・イノベーション基本計画の第2章における大目標に対する共感および中目標に対する重要度も調査した。

次の3つの大目標に対して、いずれも回答者の約半数が共感(「共感できる」「どちらかという共感できる」の合計)しており、約10%が共感できない(「共感できない」「どちらかという共感できない」の合計)という結果となった。概ね共感を集めることのできる目標となっていると言える。

- 大目標1: 我が国の社会を再設計し、地球規模課題の解決を世界に先駆けて達成し、国民の安全・安心を確保することで、国民一人ひとりが多様な幸せを得られるようにする
- 大目標2: 多様性や卓越性を持った「知」を創出し続ける、世界最高水準の研究力を取り戻す
- 大目標3: 日本全体を Society 5.0 へと転換するため、多様な幸せを追求し、課題に立ち向かう人材を育成する

【設問文】Society 5.0 の実現に向けた科学技術・イノベーション政策として、3つの大目標が掲げられています。それぞれの目標に対してあなたは共感できるかお答えください

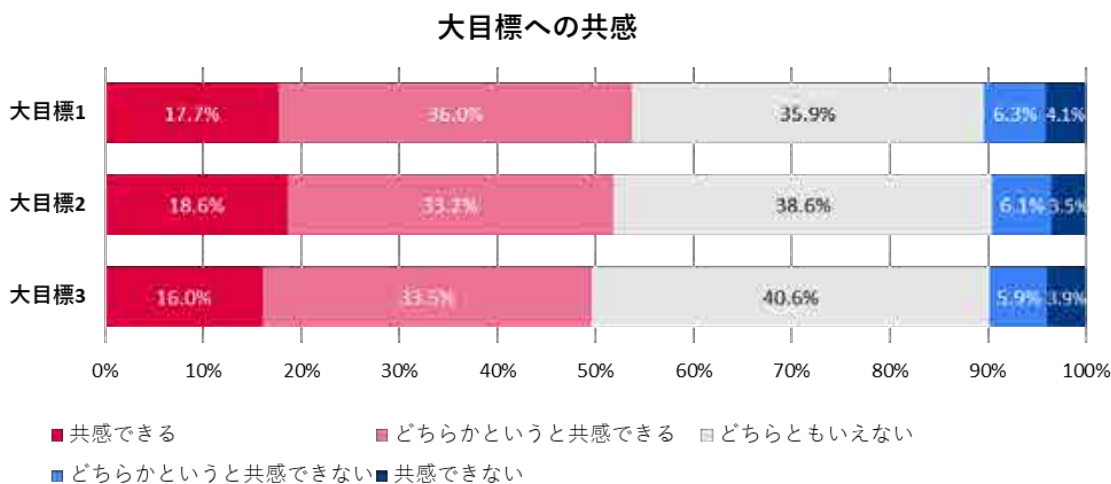


図 5-23 第6期科学技術・イノベーション基本計画 第2章 大目標への共感

第6期科学技術・イノベーション基本計画の第2章では、3つの大目標のそれぞれの中に、あるべき姿とその実現に向けた方向性として目標(以降、中目標)が設定されている。

それぞれの中目標に対して、生活者が考える重要度を調査した。なお、基本計画での原文では中目標の文章が長くなり、回答負荷の増大および回答離脱が懸念された。そこで、それぞれの中目標について、下表の通り表題の付与と簡潔な内容への書き換えを行い、設問文として回答者へ提示した。

表 5-7 Society 5.0 の社会像として提示した設問文

大目標	本調査で提示した設問文	基本計画での原文(中目標)
我が国の社会を再設計し、地球規模課題の解決を世界に先駆けて達成し、国民の安全・安全を確保することで、国民一人ひとりが多様な幸せを得られるようにする	【サイバー空間とフィジカル空間の一体化】 いつでも、どこでも、誰でも、安心してデータやAIを活用して新たな価値を創出できるようになる。	「データ戦略」を完遂し、サイバー空間とフィジカル空間とがダイナミックな好循環を生み出す社会へと変革させ、いつでも、どこでも、誰でも、安心してデータやAIを活用して新たな価値を創出できるようになる。
	【地球環境問題の解決による持続可能性】 気候変動などの環境問題を克服し、SDGsを踏まえた持続可能性な社会を実現する。	地球規模課題が深刻化する中で、我が国の温室効果ガス排出量を 2050 年までに実質ゼロとし、世界のカーボンニュートラルを牽引するとともに、循環経済への移行を進めることで、気候変動をはじめとする環境問題の克服に貢献し、SDGsを踏まえた持続可能性が確保される。
	【災害の不安がない安全・安心の確保】 自然災害や感染症など、国民生活や経済社会への様々な脅威が減少・払拭される。	頻発化・激甚化する自然災害、新たな生物学的脅威などの国民生活及び経済社会への様々な脅威に関する社会的な不安を低減・払拭し、国民の安全・安心を確保する。
	【スタートアップ(ベンチャー)を生み出す仕組みづくり】 大学や民間企業などが連携して、社会課題に挑戦するスタートアップが次々と生まれ、新たな価値が連続的に創出される。	大学や研究開発法人、事業会社、地方公共団体等が密接につながり、社会課題の解決や社会変革へ挑戦するスタートアップが次々と生まれるエコシステムが形成され、新たな価値が連続的に創出される。
	【暮らし・働きの場としてのスマートシティ】 社会的・経済的・環境的な価値等を高める多様で持続可能な都市や地域が日本各地に形成され、日本のコンセプトが世界へ発信される。	全国で展開される Society 5.0 を具現化したスマートシティで、市民をはじめとする多様なステークホルダーが参加して地域の課題が解決され、社会的価値、経済的価値、環境的価値等を高める多様で持続可能な都市や地域が各地に形成されるとともに、日本のコンセプトが世界へ発信される。
	【社会課題を解決する研究開発の推進】 少子高齢化問題、都市と地方問題、食料などの資源問題の解決に向けた研究開発を推進して世界に貢献し、一人ひとりの多様な幸せ(wellbeing)が向上する。	少子高齢化問題、都市と地方問題、食料などの資源問題などに関する我が国の社会課題の解決に向けた研究開発を推進するとともに、課題解決先進国として世界へ貢献し、一人ひとりの多様な幸せ(wellbeing)が向上する。
多様性や卓越性を持った「知」を創出し続ける、世界最高水準の研究力を取り戻す	【博士課程に進学する若者の支援】 優秀な若者が、経済的な心配なく、誇りを持って大学院博士後期課程に進学し、学术界・産業界・行政などの様々な分野で活躍する。	優秀な若者が、アカデミア、産業界、行政など様々な分野において活躍できる展望が描ける環境の中、経済的な心配をすることなく、自らの人生を賭けるに値するとして、誇りを持ち博士後期課程に進学し、挑戦に踏み出す。
	【研究成果を生み出す研究者の支援】 研究者に継続的な支援を行い、基礎研究・学術研究から多様でより優れた研究成果が創出される。	基礎研究・学術研究から多様で卓越した研究成果の創出と蓄積が進むとともに、これを可能とする研究者に対する切れ目ない支援が実現する。
	【研究に集中できる時間の確保】 女性も含めた多様な研究者が研究に集中できる時間が増え、分野や国を超えた交流も進み、より優れた研究成果が創出される。	ダイバーシティが確保された環境の下、個々の研究者が、腰を据えて研究に取り組む時間が確保され、自らの専門分野に閉じこもることなく、多様な主体と活発な知的交流を図り、海外研さん・海外経験の機会も通じて、刺激を受けることにより、創発的な研究が進み、より卓越性の高い研究成果が創出される。
	【分野を超えた「総合知」による課題解決】 人文・社会科学(文系)と自然科学(理系)の知が融合した「総合知」が創出・活用される。	人文・社会科学の厚みのある研究が進み、多様な知が創出されるとともに、国内外や地域の抱える複雑化する諸問題の解決に向けて、自然科学の知と融合した「総合知」を創出・活用することが定着する。

大目標	本調査で提示した設問文	基本計画での原文(中目標)
	<p>【データを活用した新しい研究方法の推進】 研究データや設備等が様々な研究者で共有され、データに基づいた高度な研究や国民も参画する研究が行われる。</p>	<p>オープン・アンド・クローズ戦略に基づく研究データの管理・利活用、世界最高水準のネットワーク・計算資源の整備、設備・機器の共用・スマート化等により、研究者が必要な知識や研究資源に効果的にアクセスすることが可能となり、データ駆動型研究等の高付加価値な研究が加速されるとともに、市民等の多様な主体が参画した研究活動が行われる。</p>
	<p>【多様で個性的な大学群の形成】 大学がそれぞれ個性を持ちつつ、個人の自己実現や社会変革を牽引できるようにする。</p>	<p>多様で個性的な大学群が、個人の自己実現を後押しし、人々の人生や生活を豊かにするとともに、卓越した研究力を含めた知識基盤が、新たな社会変革を牽引する。</p>
日本全体を Society 5.0 へと転換するため、多様な幸せを追求し、課題に立ち向かう人材を育成する	<p>【探究力を持つ人材の育成】 学校や民間企業等の多様な主体が関わって、好奇心・探究心が強い人材が育成される。</p>	<p>社会の多様な主体の参画の下、好奇心に基づいた学びにより、探究力が強化される。</p>
	<p>【個人が能力・資質を絶えず磨く】 個人が「やりたいこと」を見出し、それに向かって能力・資質を絶えず磨く環境が、大学や民間企業で構築される。</p>	<p>個人が「やりたいこと」を見出し、それに向かって能力・資質を絶えず磨いていく。</p>

中目標の重要度として、災害対応、環境問題・社会課題解決、研究者支援、探究力育成は相対的に重要度が高い結果となった。

具体的には、重要(「重要である」「どちらかというとも重要である」の合計)の上位の回答として、災害の不安が無い安全・安心の確保:64.5%、研究成果を生み出す研究者の支援:58.6%、地球環境問題の解決による持続可能性:58.6%、社会課題を解決する研究開発の推進:58.1%であった。

【設問文】Society 5.0 を実現するために、次に掲げられている目標のもと、国として科学技術・イノベーションの取組が推進されています。それぞれの目標の重要度について、あなたの考えをお答えください。[SA]

中目標の重要度

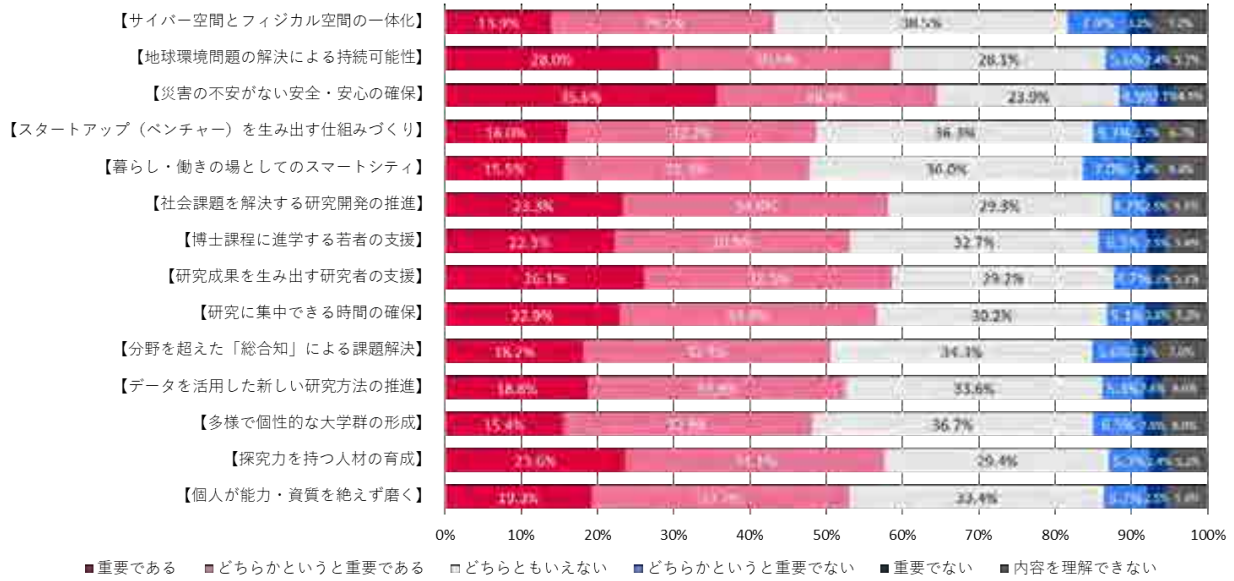


図 5-24 第 6 期科学技術・イノベーション基本計画 第 2 章 中目標の重要度

注 1) 各選択肢の表示順は回答者によってランダムに表示した。

(3) テキスト解析を用いた期待・不安に影響する要因の探索

1) モビリティ

期待の特徴語として「事故」「減る」「高齢」がみられ、高齢者による交通事故の社会課題が自動運転への期待に影響していることが推察され、また「過疎」地域への貢献も背景にあると推察される。

不安の特徴語として「AI」「事故」「起きる」「責任」がみられ、誤作動によって事故が起きた際の責任（加害者/被害者双方の視点）が不安に影響していることが示唆される。

表 5-8 モビリティの期待・不安に影響する要因(特徴語上位 10 位)

期待				不安				どちらともいえない			
A		B		A		B		A		B	
事故	0.148	運転	0.163	事故	0.175	不安	0.094	不安	0.091	不安	0.095
運転	0.144	高齢	0.155	不安	0.121	AI	0.088	思う	0.081	自動	0.088
減る	0.122	思う	0.130	AI	0.103	自動	0.077	安全	0.070	特に	0.071
高齢	0.121	期待	0.123	起きる	0.094	起きる	0.077	便利	0.067	安全	0.070
期待	0.101	交通	0.109	責任	0.081	対応	0.067	特に	0.060	便利	0.064
交通	0.088	自動	0.101	誤る	0.073	作動	0.058	心配	0.056	心配	0.039
安全	0.070	減る	0.090	作動	0.072	誤る	0.057	責任	0.039	普及	0.037
人	0.067	人	0.074	起こる	0.058	心配	0.054	怖い	0.036	責任	0.036
移動	0.056	過疎	0.064	怖い	0.056	責任	0.050	対応	0.035	怖い	0.036
便利	0.056	必要	0.054	人間	0.051	信用	0.050	誤る	0.034	リスク	0.029

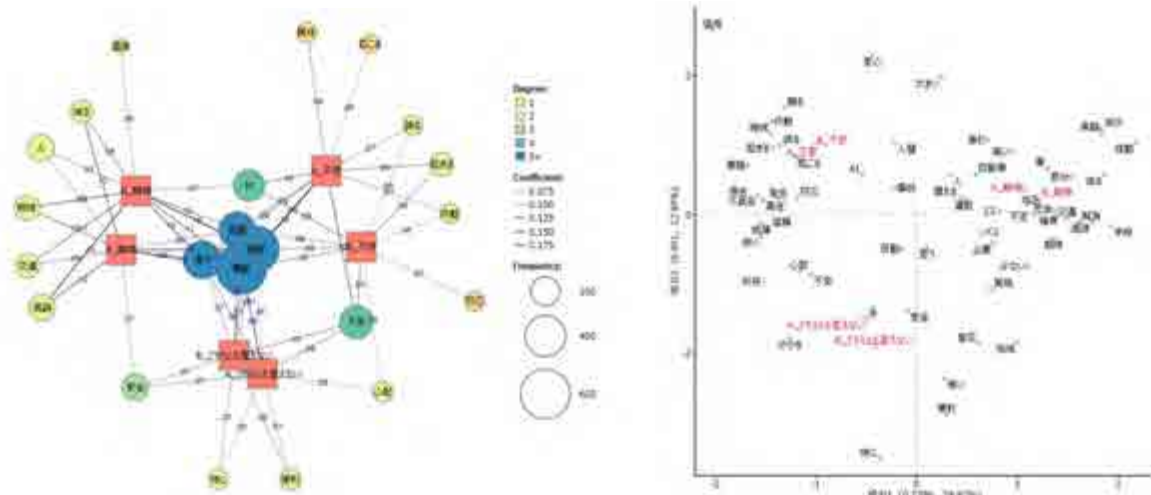


図 5-25 モビリティの期待・不安に影響する要因(左:共起ネットワーク, 右:対応分析)

2) メディカル

期待の特徴語として「病院」「行く」「過疎」が見られ、通院負担の減少が期待に影響していると推察され、また対応分析より早期発見に対する強い期待も推察される。

不安の特徴語として「誤診」「ミス」「データ」がみられ、誤診のリスクやロボットのミス等への恐れ、データ利用に対する信頼の欠如が不安に影響していると示唆される。

表 5-9 メディカルの期待・不安に影響する要因(特徴語上位 10 位)

期待				不安				どちらともいえない			
A		B		A		B		A		B	
医療	0.117	医療	0.129	不安	0.117	不安	0.128	不安	0.093	不安	0.078
思う	0.108	思う	0.122	AI	0.096	診断	0.075	思う	0.087	特に	0.066
期待	0.104	病院	0.103	人間	0.066	誤診	0.072	AI	0.081	オンライン	0.048
病院	0.093	期待	0.099	人	0.059	AI	0.069	診断	0.079	遠隔	0.044
診断	0.091	受ける	0.094	怖い	0.056	データ	0.054	特に	0.072	誤診	0.041
治療	0.079	診断	0.086	誤診	0.055	怖い	0.044	人間	0.057	ロボット	0.039
受ける	0.068	治療	0.084	ミス	0.054	病気	0.042	良い	0.056	技術	0.034
人	0.061	人	0.069	ロボット	0.050	遠隔	0.042	分かる	0.043	情報	0.031
行く	0.057	過疎	0.049	データ	0.047	人間	0.041	便利	0.039	良い	0.031
病気	0.056	便利	0.048	個人	0.046	大きい	0.040	心配	0.033	出来る	0.030

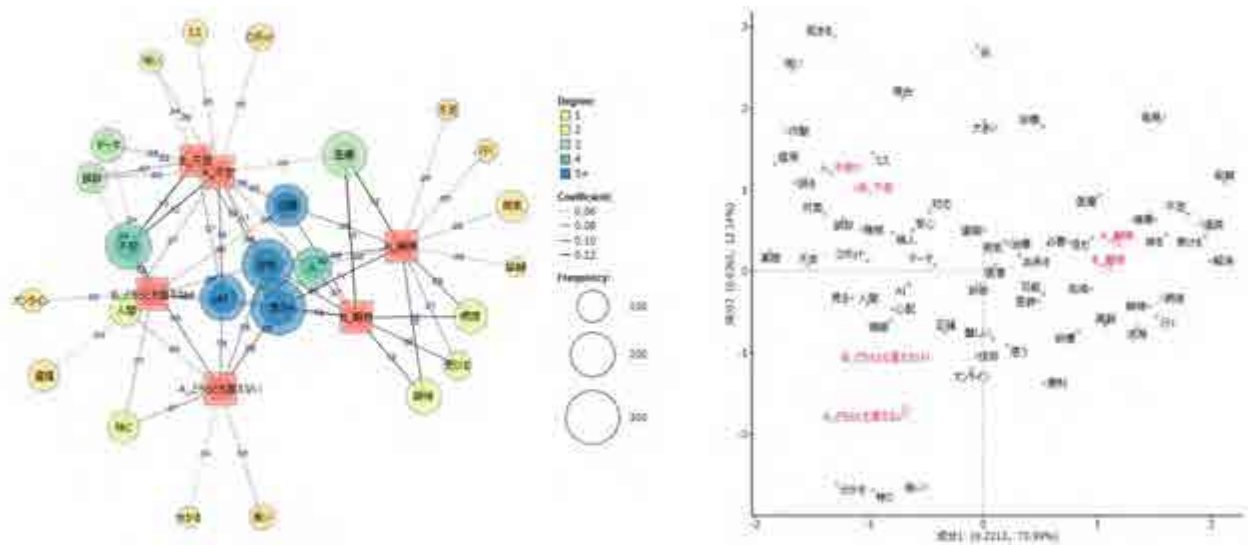


図 5-26 メディカルの期待・不安に影響する要因(左:共起ネットワーク、右:対応分析)

3) ヘルスケア

期待の特徴語として「管理」「自分」があり、自己管理に対して強い期待が推察される。

不安の特徴語として「情報」「漏洩」「流出」がみられ、個人情報漏洩が不安に影響している。また、どちらともいえないに「認知」があり、認知症になった場合に自己管理ができなくなるのが理由とされており、メリットはあるもののいつかは難しくなる可能性が期待への障壁となっている。

表 5-10 ヘルスケアの期待・不安に影響する要因(特徴語上位 10 位)

期待				不安				どちらともいえない			
A		B		A		B		A		B	
管理	0.156	健康	0.182	情報	0.120	情報	0.134	特に	0.066	個人	0.081
自分	0.142	管理	0.134	不安	0.115	不安	0.103	不安	0.063	特に	0.081
健康	0.124	自分	0.132	個人	0.101	個人	0.099	活用	0.047	活用	0.059
思う	0.114	思う	0.117	漏洩	0.089	管理	0.094	出来る	0.041	人	0.057
医療	0.070	期待	0.103	流出	0.082	漏洩	0.071	心配	0.038	心配	0.043
期待	0.070	医療	0.077	人	0.055	人	0.062	自身	0.037	分かる	0.042
便利	0.053	介護	0.067	特に	0.050	心配	0.048	漏洩	0.035	難しい	0.037
データ	0.048	大きい	0.051	データ	0.046	流出	0.047	言える	0.035	自身	0.037
自身	0.045	状態	0.045	怖い	0.046	活用	0.040	分かる	0.032	認知	0.027
出来る	0.044	必要	0.045	心配	0.030	必要	0.037	難しい	0.026	自己	0.027

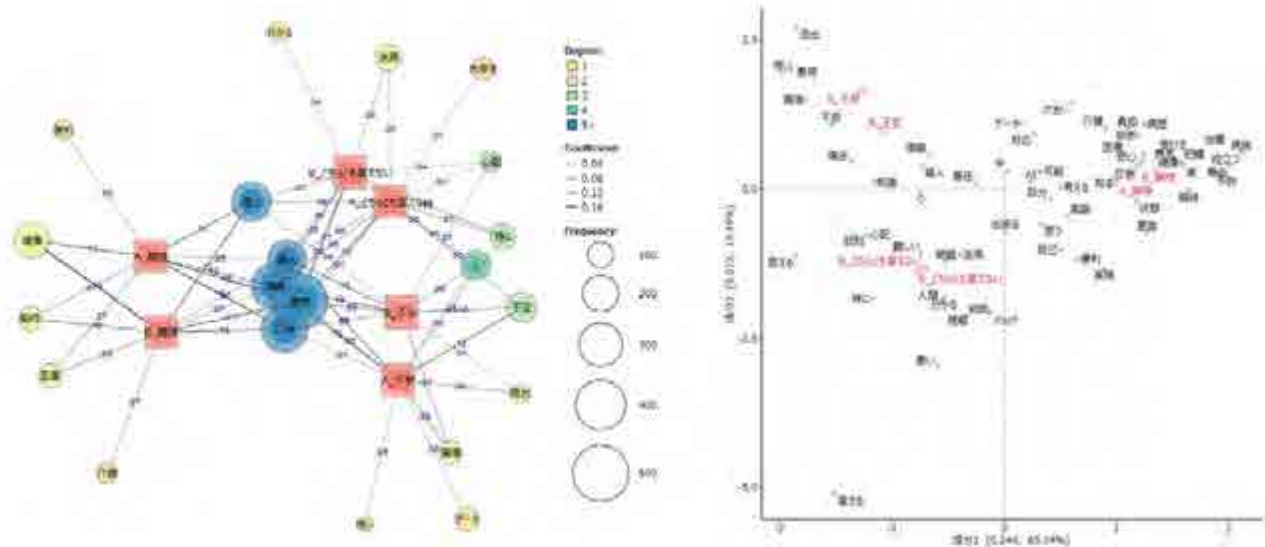


図 5-27 ヘルスケアの期待・不安に影響する要因(左:共起ネットワーク、右:対応分析)

4) 労働

期待の特徴語として「危険」「機会」「人口」「効率」が見られ、人間に代わって機会等が危険な労働を担うことや人口減少に対応した効率的な労働が期待の背景にあると推察される。

不安の特徴語として「失業」「増える」「雇用」「減る」「奪う」が見られ、失業の増加や雇用の減少による自身の就業への影響が不安の背景にあるとことが示唆される。

表 5-11 労働の期待・不安に影響する要因(特徴語上位 10 位)

期待				不安				どちらともいえない			
A		B		A		B		A		B	
危険	0.134	人	0.129	仕事	0.117	人	0.096	仕事	0.109	思う	0.104
思う	0.130	仕事	0.106	人間	0.094	失業	0.084	特に	0.071	AI	0.092
機械	0.086	思う	0.098	雇用	0.093	AI	0.075	良い	0.059	人間	0.073
期待	0.068	期待	0.097	不安	0.090	人間	0.074	減る	0.051	特に	0.057
労働	0.066	労働	0.095	人	0.090	機械	0.071	失業	0.048	不安	0.050
作業	0.066	機械	0.093	AI	0.084	不安	0.071	増える	0.046	良い	0.047
出来る	0.065	人口	0.076	失業	0.075	増える	0.061	言える	0.039	便利	0.045
人口	0.062	危険	0.076	増える	0.066	雇用	0.055	出来る	0.039	心配	0.037
効率	0.044	作業	0.075	減る	0.056	減る	0.051	雇用	0.036	奪う	0.037
必要	0.043	効率	0.064	無くなる	0.046	奪う	0.038	便利	0.033	分かる	0.036

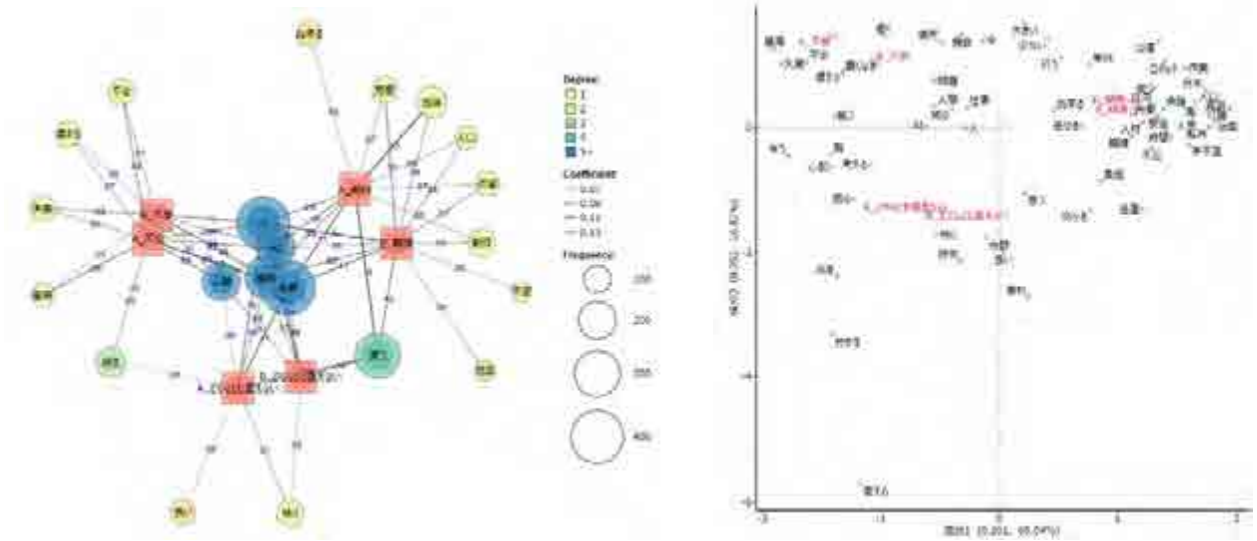


図 5-28 労働の期待・不安に影響する要因(左:共起ネットワーク、右:対応分析)

5) エネルギー

期待の特徴語として「地球」「環境」がみられ、地球温暖化等、地球規模課題解決が待ったなしの状況であることが期待に影響していることが推察される。

不安の特徴語として「電気」「高騰」がみられ自己の電気代負担が重くなることへの懸念が不安に影響し、また、コストが不透明なことがどちらともいえないという回答につながっていると考えられる。

表 5-12 エネルギーの期待・不安に影響する要因(特徴語上位 10 位)

期待				不安				どちらともいえない			
A		B		A		B		A		B	
地球	0.212	期待	0.162	不安	0.121	不安	0.086	特に	0.058	特に	0.070
環境	0.202	エネルギー	0.144	電気	0.066	発電	0.062	良い	0.049	分かる	0.049
温暖	0.166	温暖	0.142	大きい	0.049	水素	0.055	電気	0.040	新しい	0.049
思う	0.126	地球	0.140	特に	0.049	供給	0.051	コスト	0.037	電気	0.048
エネルギー	0.114	環境	0.099	高い	0.042	安定	0.050	水素	0.035	不安	0.046
期待	0.090	思う	0.097	安定	0.041	大きい	0.049	安全	0.034	実現	0.041
問題	0.088	良い	0.054	新しい	0.036	電気	0.047	高い	0.031	コスト	0.035
良い	0.068	問題	0.054	起きる	0.035	高い	0.047	言える	0.031	難しい	0.034
CO2	0.065	発電	0.053	高騰	0.032	事故	0.043	分かる	0.029	可能	0.032
発電	0.059	必要	0.052	事故	0.032	料金	0.042	原子力	0.028	高い	0.029

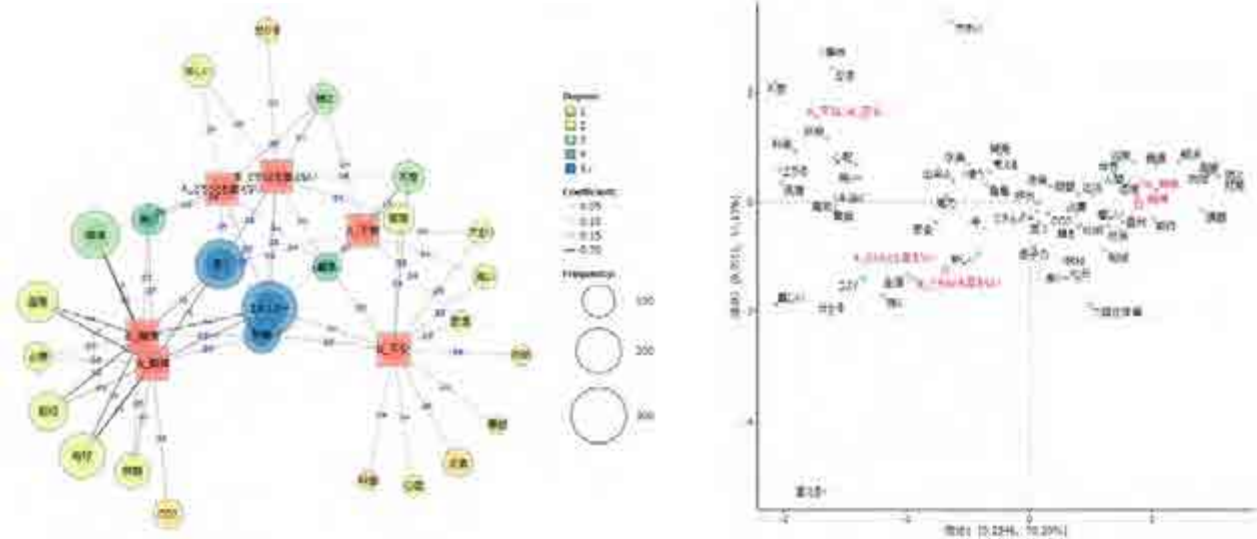


図 5-29 エネルギーの期待・不安に影響する要因(左:共起ネットワーク、右:対応分析)

6) 行政

期待の特徴語として「行政」「手続き」「時間」「手間」がみられ、行政 DX による効率化が期待の背景としてみられた。

不安の特徴語として「個人」「情報」「漏洩」がみられ、個人情報管理・セキュリティが不安の背景にあり、また使いこなせるかどうか分からないことがどちらともいえないにつながっている。

表 5-13 行政の期待・不安に影響する要因(特徴語上位 10 位)

期待				不安				どちらともいえない			
A		B		A		B		A		B	
便利	0.18	思う	0.127	情報	0.127	情報	0.179	情報	0.105	人	0.105
行政	0.122	行政	0.112	個人	0.111	個人	0.135	個人	0.078	インターネット	0.099
サービス	0.112	サービス	0.109	心配	0.086	不安	0.12	特に	0.067	情報	0.086
役所	0.106	便利	0.109	不安	0.085	漏洩	0.085	不安	0.061	特に	0.073
思う	0.106	役所	0.101	漏洩	0.068	流出	0.081	漏洩	0.06	使える	0.072
行く	0.096	期待	0.083	人	0.062	インターネット	0.075	心配	0.059	不安	0.068
手続き	0.087	手続き	0.082	流出	0.06	セキュリティ	0.06	使える	0.041	ネット	0.05